これからの安全で楽しいボートライフを願って、愛艇にシャンパンシャワーを振りかける

日本初上陸モデルでかなえた20年来の夢

吉野一郎さん

〈ディスカバリー〉〈バラクーダ7〉
7月6日　マリントピアマリーナ

人とボートの間にもいろんな形の縁があって、結ばれたり別れたりするのだろう。吉野一郎さんの場合、そのなれ初めは一目ぼれである。しかも、当時、実艇は本邦未上陸という海外ブランドのニューモデル。吉野さんはいかにして、たまたま雑誌で目にしただけの〝フランス美女〟を射止め、進水式までこぎ着けたのか。もろもろを伺ってみた。

［文］福留秀人　［写真］今村 信（本誌）　［協力］ファーストマリーン、マリントピアマリーナ

日本初上陸の個性派が風光明媚な宮津湾に進水

日本三景の天橋立（あまのはしだて）や、舟屋（ふなや）で知られる伊根漁港などの景勝地にほど近い京都府宮津湾。若狭湾に連なるこの美しい海岸に面したマリントピアマリーナで、この夏、1艇の輸入ボートが進水式を迎えた。〈ディスカバリー〉と名付けられたこの艇は、フランス・ベネトウ社が製造する小型キャビンクルーザーのバラクーダ7。一昨年にカンヌのボートショーで発表されたモデルで、実はこの〈ディスカバリー〉が日本輸入の第1号艇となる。

オーナーは、京都市内で会社を経営する吉野一郎さん。天気にも恵まれた進水式当日は、吉野さんをはじめ、自身の会社の社員を含めた10人が集合。船台に載せられ、カラフルなテープや旗で飾り付けられた〈ディスカバリー〉の前に参加者がそろったところで、司会を務めるマリントピアマリーナのハーバーマスター、山田眞一さんから式次第の簡潔な説明があり、開会が宣言された。

続いて、ボートの輸入代理店であるファーストマリーンの松島慶明さんより、（フランス製ボートだけに）「ボン・ヴォヤージュ！」のかけ声で乾杯。記念写真撮影、シャンパンによるお清めのあと、吉野さんがボートから伸びたテープをカット。クラッカーのにぎやかな音で祝福されつつ、ボートはゆっくりとスロープを

オーナーの吉野一郎さん（58歳）。20年前に知人に乗せてもらったボートの楽しさが忘れられず、このたび、長年の夢を果たすことに。ノベルティーグッズ関連の会社を経営し、仕事柄、月並みでないユニークなデザインのものが好きなのだそうだ

〈ディスカバリー〉の船名は、新たな発見、および同名のスペースシャトルのように無事帰ってくること、そして、吉野さんが好きな米国のドキュメンタリーテレビチャンネルにちなんで付けられた

(左)輸入代理店のファーストマリーンの松島さん(右から2人目)が、「ボン・ヴォヤージュー(フランス語で『よい旅を』の意)」と乾杯の発声(左下)用意されたくす玉を割ると「おめでとう」の文字。こういう仕掛けがあると、セレモニーも盛り上がる

滑り降り、穏やかな宮津湾へ進水した。

海に浮かんだマイボートに初めて乗り込んだオーナーの吉野さんは、セッティングを担当したマリーナスタッフや松島さんからボートの基本的な説明を受けたあと、エンジンを始動。ステアリングを握り〈ディスカバリー〉の初航海を行うべく、ゆっくりとポンツーンを離れていった。

ユニークなデザインと豊かな居住性に一目ぼれ

この〈ディスカバリー〉が初めてのマイボートだという吉野さん、出合いは雑誌に掲載された広告だった。

「確か『ボート倶楽部』の広告ページだったと思いますが、バラクーダ7を一目見て、デザインのユニークさに惹かれました。そして、見れば見るほど、私の目的に合っていそうで、欲しくなっていきました」

吉野さんが初めてプレジャーボートの魅力に触れたのは20年ほど前のこと。これからホームポートとなるマリントピアマリーナで、知人にフライブリッジ艇に乗せてもらったのだという。

「それが本当に気持ちよくてね。世の中にこんなに楽しいことがあるのか、と。いつかは私もここの会員になって、ボートを持って友人たちと遊びたいなと思ったんです」

マイボートの夢が現実へと動きだしたのは昨年のこと。吉野さんはボート免許を取得し、マリーナの母体である総合リゾートクラブ、マリントピアリゾートの会員となった。そして、操船に慣れるという意味もあり、手始めにレンタルボートを借りて、もともと好きだったという釣りを中心に遊ぶように。その過程で、自分がボートでやりたいこと、そのためにはどんなモデルが適しているのかといったことが、はっきりしてきたという。

確かに釣りは好きだが、それだけでは物足りない。宮津から若狭にかけてのこのエリアは景観も素晴らしく、友人や仕事関係の取引先にも乗ってもらいたいし、社員の福利厚生にも使いたい。ただ、維持費を考慮するとサイズは25フィートまで。そうなると対象は絞られる。当初、吉野さんは国産で同クラスのハードトップモデルの購入を考えて、

(上)いよいよ進水。吉野さんが、〈ディスカバリー〉から伸びたテープをカットする
(左)船台に載せられた〈ディスカバリー〉は、スロープをゆっくりと滑り降り、スターンから海へと入っていった

式の参加者も乗り込んで、いざ初航行。7メートルクラスながら、多人数で乗ってもくつろげるキャパシティーが特徴。吉野さんがボートに求めた条件の一つを十分に満たす

（上）200馬力船外機搭載。進水式直後の試乗で、搭載されていたGPSプロッターにより計測した最高速は33.4ノット。マリーナスタッフによると、現状ではプロペラピッチが合っていないとのことで、調整後はさらなるスピードが期待できる。重量感のある艇体ながら、クイックな旋回性を見せ、旋回時の姿勢も安定したものだった
（右）穏やかな夏の宮津湾へ。天橋立や伊根の舟屋など、絶景ポイントもほど近く、ゲストを乗せたクルージングメニューにも事欠かないフィールドである

見積もりまで取ったという。

「国産艇もいろいろ艤装すると、輸入艇と金額的にはさほどの差はなくなるんですね。そういうときに知ったのがバラクーダ7で、現物確認はできませんが、ベネトウ社のウェブサイトで見る限り、居住面がすごく充実している。何よりこの独特のデザインが気に入ってしまって」

吉野さんは輸入代理店のファーストマリーンに連絡を入れ、詳細を問い合わせた。

「見たこともないフネをよく買えたな、と思われるかもしれませんが、対応してくれた松島さんが非常に率直な方で、よく世話もしてくれた。あいにく私の都合がつかなくて、実現はしなかったんですが、『フランスまで一緒に見に行こう』と誘ってくれて、現地で試乗して録画したビデオを見せてくれたんです」

熟考の末、「これは間違いない」と判断し、契約したのが6カ月以上前のこと。吉野さんにとっては待ちに待った進水式だったのだ。

現物は想像以上の出来 堅実な走りにも大満足

「見た目のよさは写真の印象通り。でも、キャビン内の居住空間や、コクピットのシートスペースなどは想像以上によく出来ていますね。特に、天井の高いトイレの造りなどは実用的で、非常に考えられているところだと思います。女性の方がゲストのときは、トイレが狭いと申し訳ないですからね」

初めて目の当たりにした愛艇を細部まで確認しながら、感激しきりの吉野さん。確かに、7メートルのサイズにしては大きめのパイロットハウスを備えており、着脱式のクッションやテーブルなどを用意したコクピットスペースの作り込みは、輸入艇ならではの充実ぶりである。

本邦初上陸のモデルということで、筆者も別途、試乗させていただいたのだが、200馬力船外機による走りは、きびきびとしたスポーティーな楽しさがある。また、パイロットハウスのボリュームから重心の高さを懸念したのだが、ハル自体にも上部構造に見合うボリュームが与えられており、不安定な挙動は皆無。居心地のよい全天候型のパイロットハウスと高い安定感は、日本の海にもピッタリなのではと思わせる。

ステアリングを握る吉野さんも、愛艇の走りには好感触を得ているようで、「これはいいね！」を連発。20年来の夢をかなえた満足感が伝わってきた。

「窓が大きいから周囲がよく見える。操船していて圧迫感もなく気分は最高です」と吉野さん。パイロットハウス内はほぼ360度の視界が確保されており、明るさも申し分ない

マリントピアマリーナ

〒626-0225 京都府宮津市日置3784　TEL：0772-27-0700

吉野さんのホームポート、マリントピアマリーナ。魚影の濃い若狭湾に位置し、景勝地・天橋立などクルージングスポットにも至近と、絶好のロケーションが魅力

マリントピアマリーナを運営するマリントピアリゾートは、オープンから20年以上たつ関西有数の会員制の総合リゾートクラブ。マリーナのほかに分譲マンション、戸建て別荘、ゴルフ場、温泉施設などを有する。大阪、神戸、京都から100キロ圏にあり、2時間ほどでアクセス可能。建設中の高速道路が開通するとさらに便利になる。

吉野一郎さんの愛艇〈ディスカバリー〉

ベネトウ・バラクーダ7

フランス・ベネトウ社は、日本ではセールボートで有名。バラクーダはスカンジナビアのワークボート風のスタイルが特徴のパワーボートシリーズ。同モデルは23フィートクラスながら、居住性の高いキャビン、ラグジュアリーなデッキレイアウトが特徴。釣りに便利な艤装も多数用意され、キビキビとした機動性も魅力。ユニークなデザインと高いレベルでのマルチパーパス性が、吉野さんの志向にぴったりだったという。

パイロットハウスの天井はサンルーフ仕様。エアコンの設定はないが、ここを開け放てば夏場もかなり涼しそう

とにかく"居場所"が多く、きちんと用意されているところが輸入艇ならでは、と吉野さん。「バウレールの背もたれクッションも格好いいでしょ」

パイロットハウス後方の跳ね上げ式シートを下ろし、テーブルトップを据え付けると、吉野さんお気に入りの、4～5人がくつろげるラグジュアリースペースが

初めて愛艇のステアリングを握る吉野さん。窓は大きく、ヘッドクリアランスにも余裕がある室内に、圧迫感は皆無。ヘルムステーションは、ビルダー推奨のロランス製GPSプロッター魚探を正面にマウントした、シンプルなレイアウト

「最初からいろいろ用意されているのが輸入モデルのいいところです」と吉野さん。トランサムの4連ロッドホルダーは純正オプション。右舷側のライブベイトウェルは、ベネトウの用意したフィッシングパックオプションの一つ

「トイレの居住性も、このボートを選んだポイントの一つです」と吉野さんが語るヘッドルームは、約150センチと十分なクリアランスを確保する

(上)ナビシートの座面を取り外すと、ご覧のようなギャレーが。左下は小型冷蔵庫。「ちょっとしたクルーザー感覚でいいでしょ」
(左)ドライバーズシートはスライドアジャスト付きで、さらに、座面を跳ね上げてリーニングシートとしても使用可能。ナビシートは2人分のキャパシティーがある

主な仕様 ●全長：7.39m ●全幅：6.46m ●最大搭載馬力：200馬力 ●燃料タンク容量：200L ●艇体質量：1,877kg ●定員：8名 ●航行区域：限定沿海 (問)ファーストマリーン TEL:0120-487-410 http://www.firstmarine.co.jp/